

2年生の今

歯学科2年 今井千尋

入学してから1年が過ぎ、2年生として新たな生活が始まりました。2年生になって約3か月経った今、旭町キャンパスでやっと歯学生として一步を踏み出せたような、まだまだ新鮮な気持ちです。白衣で実習に向かわれる先輩方の姿はとても凛々しく、私もいつかそうなりたいという期待で胸が膨らみます。その日を迎えるために、日頃の学習に全力で取り組んでいきたいです。

2年生になり専門性の高い科目が増え、今まで以上に一つ一つの講義への集中が必要になりました。歯科理工学や人体解剖学、歯科薬理学、生化学など、習得しなければならぬ知識の量に日々圧倒されています。また講義中に、「将来受ける国家試験によく出題されるよ。」と先生方からお聞きするたび、2年生の座学の重要性を再認識しています。将来患者さんの大切な歯を治療させて

いただくからには、知識不足での失敗は許されません。歯科材料の正しい取り扱い方や歯科治療に用いられる薬物、口腔を中心とした解剖学などの知識を正確に習得していく必要があります。3年生では人体解剖学実習があるので、2Dで学んでいる現在の解剖学の知識を3Dで見た時にも活かせるように、組織や器官などの関係性を整理しておきたいです。今学んでいる歯科医学の基礎科目を、知識としてしっかりと定着させ、将来の臨床科目につなげていきたいと思います。そのためには日々の学習に妥協はせず、欲張りになって取り組んでいきたいです。

講義は座学が中心ですが、1年次に引き続き早期臨床実習Ⅱがあります。さまざまな診療科で実習や治療見学などを行うなか、専門科目を習い始めたので、材料や器具の名前に注意深くなりまし



た。座学で習った材料が、実際に治療で使われているのを見ることで、日頃の学習へのモチベーションがあがり、知識の定着にもつながります。サプライ実習では、院内感染対策の視点からも医療従事者の責務について考えさせられました。歯科薬理学の講義でも学んだように、スポルディング分類によって滅菌か消毒かを正しく判断しなければいけないと実感しました。治療中の手の消毒やグローブの付け替えのタイミングなど、1年生の時には気づいて観察していなかった部分にも注目して実習に取り組みたいです。

2年生になり勉強面以外にも新鮮に感じる事が2つあります。1つ目は、部活動に新入生が入り、後輩ができたことです。私が1年前に入部した時、部活の先輩方のやさしさで何度も助けていただいたことを思い出します。私も先輩方のように後輩のことを気遣える存在になっていけるよう心掛けたいです。デンタルや東北リーグなど大き

な試合もあるので、日々の練習で得たことをバネに、より強くなっていきたいと思います。2つ目は、2年生専用の教室があることです。五十嵐キャンパスでは、講義がバラバラで全員そろうことが少なかったクラスのメンバーが、旭町キャンパスの小さな教室の中に、ぎゅうぎゅう詰めになって授業を受けていることはとても新鮮に感じます。人数の多さに教室の中が蒸すことがあるので、換気を忘れないようにし、こまめに水分補給をとりたいです。クラスのメンバーの講義に対する意識は高く、休み時間に勉強を教えあっている姿を見ると、自分も頑張らなくてはと意欲がわきます。楽しむときは全力で楽しみ、集中するときは集中する、時間を上手に使えるメリハリのあるメンバーです。このクラスのメンバーと、これからも充実した日々を過ごしていきたいです。

以上が2年生の今です。最後まで読んでいただきありがとうございます。



3年生の今

歯学科3年 小野 すみれ

歯学部ニュースの原稿依頼を受けたのは確か1か月以上前だったはずなのに、気が付けば締め切りまで1週間を切っている！思い起こせばこれまで生きてきた21年間、そんなことの連続でした…小学生の夏休みの宿題も、レポート提出も、センター出願もなぜか前日。綱渡りの自転車操業状態を毎回悔いて、次こそは！と固く心に誓ってはみるものの、まあ人間そう簡単に変わるはずもなく、今回またしても締め切り間近となっているのです（涙）

と、前置きが長くなりましたが、私たち50期生もこの春立派(?)な3年生となりました。3年生のメインイベントである解剖学実習は、いよいよ佳境に差し掛かっています。実習が始まる前までは、先輩方から聞かされる虚実取り混ぜた話にただただ不安や恐怖を感じるばかりでした。身支度を整え、最初に解剖室に入る時のあの緊張感は今でも忘れられません。しかし、いざ実際に実習が始まってみると、そんな心配は全く杞憂であることがわかりました。実際に直接触れ、五感で感じ取ること、これまで教科書や資料で得てき

た、点でしかなかった知識が線につながり、さらに立体的なものとして体得できる喜びを感じられる、非常に充実した実習です。週2回行われ、とても密度の濃く、いくら予習をしたと思えても、毎回自分の学習不足を痛感します。予習は、限られた時間を有効に活用するために非常に大切であり、私たちの班では、個人で予習し、それをもとに全員で手順やポイントを確認した後、実習に臨むようにしています。そして、解剖後は決まって丸亀製麺で共にうどんを食べながら、反省会をしたり他愛のない話で盛り上がったりと絆を深めています。(実は米が食べたいとは言えない) 実習は体力的にも精神的にもハードですが、ともに頑張り助け合う仲間存在により、辛いことも乗り越えることができます。実習を通して、人体について深く学ぶことはもとより、緊張を克服する強い意志と生涯を通して支えあえる頼もしい仲間を得ることができるのだと強く確信しています。また、こうして学ぶことができているのも医学の発展のためにご献体してくださっている方々、ご遺族の方々のおかげであることを常に忘



れず、さらに辛抱強く教え導いてくださる先生方へ感謝しながら、残りの実習も頑張りたいです。

解剖の予習、テスト勉強、部活に（たまに遊びにも）追われながら忙しい日々を送っていますが、先日は歯学部運動会が行われ身も心もリフレッシュすることができました。私は大縄跳びと麻袋飛びに出場しましたが、年々重力を感じつつあることを実感し少し悲しくなりました。みんなの普段真面目に（？）講義を受けている時とは違う、粉にまみれた真っ白な顔、大縄に引っかかる

まいといった鬼気迫った表情、パン食い競争で野性的にパンに食らいつく表情…どれも印象に残っています。今年で3回目の運動会でしたが、仲間達の新たな一面を見れたことや、一緒に競技に取り組むことでクラスの絆もますます深まったと思います。

忙しくも適度に息抜きをしつつ、頼りになる仲間たちと共に、本学入学当初に抱いた夢から目標に変わった思いを実現できるように勉学に励んでいきたいと思います。



4年生の今

歯学科4年 齋藤 ちはる

歯学部学生の今を書くに当たって、4年生として何を話すのが相応しいのだろう。そう思いバックナンバーを探し、先輩方の文章を読んでみました。意外にも部活や普段お世話になっている先輩方がたくさん文章を寄せていらっしゃいました。実習が大変で…といった内容があり、私はとても励まされました。私も後輩の励みになるような文章を書きたいと思います。

入学時から、年々忙しく大変になってくるということをいろんな人から聞かされながら4年生まで過ごしてきました。しかし私はその当時でさえも、試験が大変だったり、実習が大変だったりしたので、絶対それは嘘だ！とっていました。ですが年々大変さが増していくというのは本当でした。試験はいくつもあり、実習も前期は週に2回あります。部活動では幹部学年ということもあり、後輩たちをまとめていく責任があります。私が低学年だったころの先輩方は、特に苦労することもなくさらさらっとこなしているように見えました。しかし歯学部ニュースに苦労話が載っていたり、お話を伺ったりして、実際は私と同じように奔走していたということがわかって親近感を覚えました。4年生では義歯やクラウンの実習等がありますが、私は本当に不器用なのでとても大変です。ですがある程度の所までは、実習も予習することでカバーできることも多いのだと実感してきました。ただ、どの程度まで予習すれば要領を得るのかどうかは個人差が大きいです。私の場合は他人の何倍も努力しなくては人並みにならず、試験勉強や大会などですぐその努力の必要量が足らなくなってしまう。優先順位を考えて行動し、時間を上手く使うことが大切です。時間を上手く使うというのは、具体的には授業中に授業後の負担を減らす工夫を行い、事務仕事や課題などやらないといけないことを休み時間に済ませ

てしまうといったことです。地道なことですが、小さなことの積み重ねで時間は確保できるのだと思います。余談ですが、iPad等の電子機器は学生にとって効率化の味方だと思います。重い荷物はいらぬし、ノートはいらぬし、ペンもいりません。どこにいてもすぐに過去のノートを振り返ることができます。教科書だって、使い方次第で紙で存在しているより便利です。私はもともと心配性で教科書もノートもすべて毎日修行僧のようにリュックで持ち歩いていました。そのために肩に傷ができてしまいました。とてもとてもショックで反動でiPadを買いました。投資する価値は十分にあります。学生間でこのような電子機器をどのように使っているかを教えあえるような機会があったらいいのになと思います。

日々の授業では、3年生で基礎科目の授業を終え、臨床的な授業ばかりになりました。今までよりグッと、自分は歯科医師になり、それ以外の道はないという感じが強いです。歯学部外の人に自分が歯学部生であることを告げると、歯科に関する鋭い質問をされたりすることがよくあります。まだわからないです…といった返答を3年生まで



はよくしていました。しかし最近では答えられることが多くなってきました。臨床実習中や、歯科医師になってからは知らないでは済まないのだから、より学んでいかなければならないと感じます。また今までは断片的な知識が多くありまし

た。臨床についても、授業では理解が難しいこともありました。しかし4年生になって、実習が増えて、(大変ではありますが)今までの知識が有機的に繋がってきています。せっかくの機会を活かすことができるよう精進していきたいです。



宝箱の中は黒

歯学科5年 小林 亮太

私の夏は真っ黒に染まっていた。

燃え盛る街並みの中、人気のない路地を歩いていると再会する。煙草と炭の煙で顔をしかめ、若く黄色い声色が脳を揺さぶり、色とりどりの光が私を包む。ただいまと言わんばかりに、私の中に夏が住み始める。

人の「記憶」と「におい」というものは密接に関係しているというが、それは誰しもが身をもって知ることができる真実である。それは人それぞれがもつ感覚であり、もしかすると同じ境遇の人なら共有することができる感性なのかもしれない。そんな話をしていこう。

5年生にもなると様々な経験や思い出が増えていくが、それと同時にそれを励起させるにおいというものが増えていく。

砂交じりの熱風が鼻をつき、鉄くさい臭いが手から離れてくれない。照り付ける日差しに喜ぶのはメラノサイトとかいう変わり者ぐらいである。ばたばたと奔走する同級生を眺めていると自分も成功させねばと手に汗を握る。その結果生み出されたものは200人近い参加者の笑顔と5年生の優勝。後者はなぜか毎年であるが、それは言わぬが花、歯学部7不思議の1つとでもしておいたほうがよいかもしれない。そんな運動会がだいたい昔の出来事かと思ってしまうのは、日々何かに追われている5年生の性であろう。

もしかすると歳をとることというのは、見えないうちに何かに追われることであると同時に、締切という怪物に突っ込むことであることかもしれないと気付いたのはつい最近のことである。思えば小さい頃はなに追われるわけでもなく、それこそ追ってくるのは鬼ぐらいのものだった。待ち構えているのは怪物なんかではなく、温かい母の夕飯と、リビングで寝てしまった私を布団まで運んでくれ

る力強い父の腕くらいのものであった。この歳でこの学年で、これほどまでに常に何かに追われているのだから、歯科医師になったあとのことを考えると気が気でならない。かけこで真っ先に捕まっていたのは自分だったのだから。

歯科という世界に入門することが急に現実味を帯びてくるのがこの学年だとも思う。あまりに急すぎて、それは寝起き後すぐにマラソンをしろと告げられた時の感覚に近いかもしれない。ポリクリで各科を回りだしてつくづく感じるのは、焦りと恐怖である。数ヵ月先には臨床の現場に立ち、患者さんの治療をしている自分がいるだろうし、そうでなければならない。彼にバトンを渡すのはほかでもない過去の自分と今の自分であるの言うまでもないだろう。そうか。私を勉強しろと追い駆り立てるのは、過去の怠けていた自分ではないか。それならば力の限り彼から走り逃げ、未来の自分に今あるバトンを少しでも早く渡せるようにしなければ、それが自分自身に対する責任というものではないか。そんな理由づけをしながら今日も机に向かう。CBTや国試という怪物に突っ込む日まで。

病院の階段のこもった熱を帯びたあの独特なおい、グローブを外した後の手のゴムのにおい、消毒用エタノールのツンとしたにおい、1日実習



を終えた後の服のにおい、クーラーのかかりすぎた更衣室の少し汗臭いようなにおい、ご飯時だぞと主張せんばかりの昼の教室のにおい、気になるあの子のシャンプーの香り。なんてことのないすべてのにおいが、学生生活の思い出とともに私の記憶へと染み込んでいる。

CBTやOSCEが終われば我々は激動の日々を過ごすことになる。そこには甘く楽しいにおいよりも、つらく苦しいにおいの方が多いかもしれない。だがそれすらも愛おしい思い出として自分の

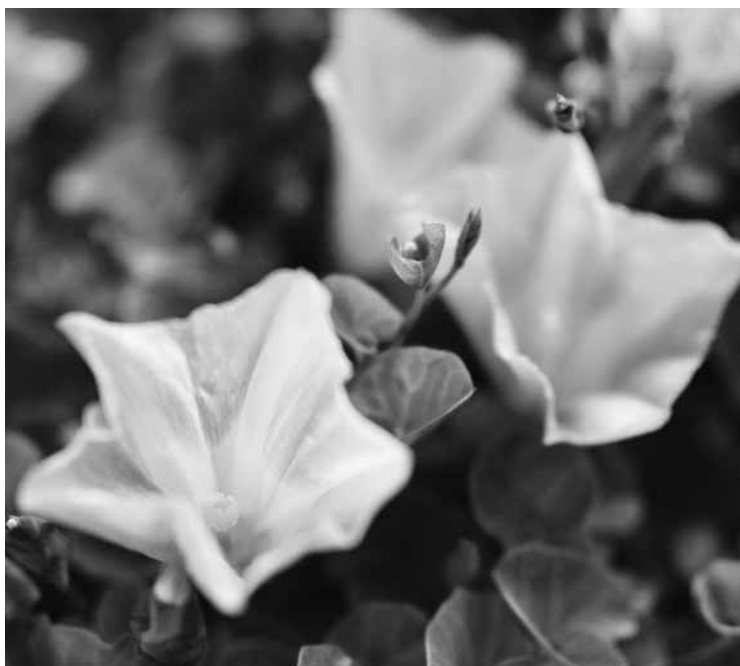
宝物になっていくだろう。

あしたはどんな宝物ができるだろうか。

そんなことを思いながら5年生の今を生きている。

私の中に夏が住み始めるとき、彼は多くのものを置いていく。そのすべてが色彩豊かな思い出となり、私の中で混ざり合う。そして今年もこう思うだろう。

私の夏は真っ黒だ。



6年生の今

歯学科6年 小山祐平

6年目にして初めて歯学部ニュースの学年紹介に投稿させていただきます、歯学部歯学科6年の小山祐平です。今まで、あみだくじで執筆者を決定するのが恒例の歯学部ニュースでしたが、今年は歯学部ニュース編集委員であり、私が3年生の解剖学実習でインストラクターでもあった、斎藤浩太郎先生からの突然の指名にて、初めて執筆することとなりました。

さて、テーマは「6年生の今」ということで、6年生がどういう生活を送っているのか、皆様にできる限り知ってもらえるように書こうと思います。しかしながら、書ける文字数に限りがあり、すべてを紹介しきれませんので、次のページの6年生の金子絵里奈さんの文章も合わせてご覧ください。

5年生の共用試験（CBT・OSCE）に無事全

員合格し、10月に臨床実習が始まってから、早9か月が経ち、あと3か月ほどで5年生（48期生）に引き継ぐところまでできました。おそらく、この文章が載った歯学部ニュースが皆さんの手元に来る頃には引き継ぎは始まっていることでしょう。

6年生といえば、臨床実習。新潟大学歯学部の臨床実習は診療参加型の臨床実習で、実際に学生は各専門診療科のインストラクターの指導の下、ひとりの担当医として治療に参加するという、全国でも東京医科歯科大学と新潟大学でしか行われていない実習です。実習では、クラスメートひとりひとりが、異なる症状を持つ患者さんを10名ほど担当します。

典型的な6年生の1日を紹介すると、朝は8時ごろに登校し、9時からお昼を挟み16時までは総診で診療、または、係の仕事、口腔外科などの専



クラウン・ブリッジの青柳先生（2列目中央）とのケースリーダー会にて
筆者2列目左から2人目

門診療科での分散実習を行います。係の仕事や分散実習については、次のページで金子絵里奈さんが詳しく説明してくれますので割愛します。そして、夜は19時近くまでプレチェックや、技工室で診療前のレポート作成、技工物製作に励むという毎日です。引き継ぎ当時は、帰りの外は真っ暗、そんな日々「なんてブラックな学生生活なんだろう」なんて思っていました、今ではそんな生活にも慣れ、時間の使い方が上手くなった(?) 気がします(笑)。

引き継ぎが終わった昨年11月、初めてひとりで診療した日の緊張感は今でも忘れられません。9時に診療がスタートするのですが、30分以上も早く外来に行き診療の準備をし、患者さんをお呼びする前の残り数分でレポートを少し見直す、診療中は緊張が思いっきり顔に出ていると思います。基礎実習と明らかに異なることは、「責任」の2文字。臨床実習では実際に患者さんの歯を削ったり、時には抜歯を行ったり、自分のその行為ひとつひとつに責任がついて来ます。それだけに、ライターの先生方は優しさの中にも厳しさを持って丁寧に指導して下さいます。正直に言って、臨床実習は、プレチェックやレポート、技工物に追わ

れ、緊張感の連続で大変です。しかし、それ以上に教科書を読むだけでは得られない多くのことを学ばせてもらっています。診療が終われば、技工室に帰って来てホッと一息つけます。技工室では、普段の会話の中にも、治療方針や臨床操作、技工物の製作などに関して、クラスメート同士で相談しアドバイスし合っ、お互いモチベーションを高めています。

さて、この文章を書いている今は6月26日。つい先日、マッチングへの登録が始まりました。マッチングは、卒後の臨床研修先を決める大事なイベントです。マッチングの次は、国家試験と、今後の自分の人生を決める岐路に立っています。将来、自分は何がしたいのか、クラスメートや先輩、両親に相談したり、医局説明会で先生方にアドバイスを頂いたりして、決めたいと思います。

そして、6年生は学生最後の年。部活や飲み会、最後の夏休み、学生のうちにしかできないことを満喫しようと思います。

最後に、臨床実習も残り3か月。この臨床実習に関わる先生方、患者さん、すべての方々に感謝し、残りの実習を行いたいと思います。

6年生の今

歯学科6年 金子 絵里奈

臨床実習が始まってから早くも9か月が経とうとしていきます。多くの方がご存じの通り、私たち6年生は、それぞれの学生が10数名の総合診療部の患者さんを担当し、治療計画の立案から実際の治療に至るまでの全てを行わせていただいています。6年生って、毎日1日中診療をしているの？と思われがちですが、担当患者さんの診療以外にもたくさんの実習項目があり、毎日充実した日々を送っています。6年生の大まかなことは小山くんが書いてくれていると思うので、今回はあまり知られていないと思われる6年生の臨床実習内容について、いくつか紹介したいと思います。

【各診療科の外来見学】

歯診、クラブリ、義歯、小児、矯正、予防など

各診療科の先生方の診療の見学、アシストをさせていただきます。治療の手技はもちろんのこと、患者さんとのコミュニケーションなど学ぶことが本当にたくさんあり、自分の診療を見つめ直すきっかけを与えてもらえる実習です。

【係】

予診係では、研修医の先生方が行う初診患者さんへの医療面接や口腔内診査のアシストを行います。限られた時間の中で的確に主訴や経過を聴取することが求められ、研修医の先生方からその技術を学ばせていただいています。その他、診療前のユニットのフラッシングと手用スケーラーのシャープニングも予診係の仕事で、朝が早い仕事の一つでもあります。



技工室にて

受付係では、患者さんからの電話対応を行った
り、初診患者さんを予診係に引き継ぐ仕事を行います。
受付のクラークさんが患者さんに対応する
姿を間近で見たり聞いたりすることができるため、
丁寧な言葉遣いや適切な対応を学ぶことができます。
臨床実習が始まったばかりの頃は電話対
応が苦手でしたが、今は少し慣れることができた
と感じています。

支援係では、総診患者さんの診療をするクラス
メートのアシストを行います。友達が診療してい
る姿を見ると、診療時の工夫や患者さんへの心配
りなど、自分も真似してみよう！と思える新たな
発見が多いです。

【口腔外科分散実習】

3日間×5クルールの日程で、口腔外科において
外来見学、病歴聴取、小手術見学、中央手術室で
の手術見学、病理検査などを行います。担当症例
の所見用紙を記載するのですが、なかなかOKが
もらえず、何度も先生のところに通ってご指導を
いただくこともあります。

その他にも、摂食嚥下リハビリテーションでの
1週間の実習や、CT・MRI・US見学、CT診断、

全身麻酔法見学、矯正歯科の診断、歯周アドバ
ンスの発表などがあります。時には訪問歯科診療見
学や保育園や小中学校、高校、大学の歯科健診な
ど、外に出向くこともあります。やるべきこと、
やりたいことが多く大変な日々ではありますが、
これまでの自分の人生を振り返っても、間違いな
く1番充実し、1番楽しい日々を送っていると感
じています。毎日本当に楽しいです！多くの方が
関わり、支えられて私たちの今があることを忘れ
ずに、あと残り数か月の臨床実習に臨みたいと思
います。

朝7時に技工室に行くとなぐらで技工用バキュー
ムの音が聞こえ、技工物を製作している人がいた
り、難しい症例を担当し、見たこともない技工を
やっている人がいたり、頑張っているクラス
メートの姿を見て何度もパワーをもらいました。
みんなが頑張っているから、私も頑張ることが
できています。最近マッチングプログラムの登録が
始まり、将来が現実味を帯びてきました。病院見
学で欠席している人がちらほら見受けられ、数か
月後にはみんなが全国に散らばってしまうのか…
と思うとすごく寂しいですが、あと数か月、47期
みんなの良い思い出をたくさん作りたいと思いま
す。



歯学生の今

口腔生命福祉学科 2年 保坂 菜里美

みなさん、こんにちは。口腔生命福祉学科2年の保坂菜里美です。今回、「歯学生の今」ということでお話をいただいたので、2年生になってからの私の生活について、1年生の時の生活と比較しながら紹介したいと思います。

初めに、勉強についてです。1年生の頃はほとんどが一般教養で、前期の金曜日以外は五十嵐キャンパスに通っていました。正直、1年生の頃は歯学生という意識はほとんどありませんでした。しかし、2年生になった今はほとんどが専門科目なので、歯学生という意識を持つようになってきました。講義や実習などで見たり聞いたりすることというのは初めて知ることばかりなので、覚えることも多く、大変だと感じる一方で毎日が新鮮だと感じます。2年生になって勉強面で一番変わったことは、PBL (Problem-based Learning) をやっていることです。様々な科目でこのPBLを行っています。PBLとは問題発

見・解決能力を高めるものです。問題に基づく学生主体の学習で、文章を読み、問題を見つけ、解決に導くというものです。最初は予備知識が全く無い状態で始まったので、とても大変でした。2年生になって3か月経った今も、まだまだわからないことはたくさんありますが、徐々にPBLでやったことや講義で習ったことをつなぎ合わせて物事を考えられるようになってきています。また、人の意見を聞くと、自分とは違う考えをたくさん知ることができて、とても勉強になります。この過程を繰り返し、今、医療人に求められるコミュニケーション能力や問題発見・解決能力、根拠に立脚した医療を実践する力を身につけたいと思います。

次に、サークル活動についてです。私は五十嵐キャンパスのダンスサークルに所属しています。今年も多くの1年生が入ってくれました。最近の活動としては、1年生に基本を教えることと、イ



イベントに向けての練習がメインになっています。これから秋に向けて、にいがた総おどりや新大祭といった大きなイベントがあるので練習にも力を入れていきたいと思っています。私のサークルは10月に代替えで、今年の10月には自分たちがサークルを引き継がなければなりません。その後は先輩も後輩もいる状態での活動ですか、同期のサークルメンバーと協力しながらサークルを引っ張っていきたいです。サークルに少しでも貢献できる人になりたいと思っています。勉強と両立しながら頑張っけて続けていきたいです。

最後に学校生活についてです。2年生になって、毎日ほとんどの講義を口腔生命福祉学科の2

年生で受けています。口腔生命福祉学科の人数は20人と少ないのでとても仲が良く、全員女子なので昼休みなどは毎日にぎやかです。一人ひとり個性があってとても楽しく、また居心地も良いです。PBLで、今まではあまりしゃべらなかった人とも話すことができるので新たな一面を見つけることができたりして、さらに仲が深まっている感じがします。

2年生になって環境が変わり、気持ちの変化もありました。時間が経つのは早く、あと1か月ほどで夏休みになろうとしています。様々なことを経験、吸収して、成長していきたいと思います。



歯学生の今

口腔生命福祉学科 3年 北村 友里恵

大学に入学してから2年間が経過し、驚くことに、今は大学生活の後半を過ごしている。3年生へと進級してからこの数か月、自分自身や周囲の変化に気づかされずにはいられない。休日の予定等、たわいない会話でにぎわっていた教室も、いつの間にか進路や実習の会話が行き交うようになっていた。大学生活の後半を迎え、私たちもようやく将来に近いものだと自覚し始めたところである。

口腔生命福祉学科では、3年時から歯科の学習に加え、本格的に福祉科目を学び始める。福祉の授業では、皆さんもよく耳にするであろう年金や介護サービス、健康診断、生活保護…等の社会保障制度について、またソーシャルワーカーに求められるスキル等を学んでいる。

学習形態としてPBL形式をとることも多い。座学とは異なりグループでの討議を元に課題設定から課題解決までを行うので、自分が理解したこ

とを他者へ伝える能力、また他者の意見を理解しそれらを統合する能力が必要である。PBLは自分だけの理解では成立せず、座学に比べ負荷を感じることもある。しかし将来、歯科と福祉のいずれの道に進むにせよ、PBLで培われた能力が役に立つのではないかと感じている。疾患が発症に至るには様々な要因が関係しており、また社会的援助が必要な人についても、彼らは複数の問題を同時に抱えている場合も多い。その人を取り巻く多くの問題を把握することなしに本人が納得できるような治療や援助は行えない。そして複数の問題を発見するためには自分ひとりの視点では不十分であり、多職種での連携が欠かせないと思う。そのため、PBL等の集団での討議は将来に通じるものであると心に留め、日々取り組んでいる。

また、福祉を学ぶ中で今の私が強く感じていることがある。それは、人の思考や性格はその人の歩んできた人生によって形成されるということだ



ある。すなわち、人の思考には少なからず偏りや先入観がある。治療や支援を行う際、こうした自分の先入観にとらわれず、相手の視点と客観的な視点の両方を持ち合わせる必要があると思う。そのためには、様々な経験をし、多くの人と出会い、自分自身の思考の傾向や他者の考え方を学ばなければならない。残り半分の大学生活とはいえ、まだまだ挑戦の余地は残されている。進路と向き合いながらも、できる限り様々な経験を積みみたいと思う。

歯科については、臨床に向けた知識・技術を学ぶと共に、実際の現場で保健指導や補助、見学をさせて頂いている。その中で印象的であったものの1つとして、幼稚園児に対する集団歯科保健指導がある。実際に保健指導を行うのはこれが初めてであり、最初は中々本番を想定できなかった。4月から6月の本番に向けて準備を開始し、指導目標の設定からリハーサルまで計画的に進めていった。本番は3、4、5歳児に対する全体指導で齲蝕に関連した劇を、また、各クラスにおいてブラッシング指導等、幼児の発達に応じた指導を行った。この実習を通し、集団歯科保健指導を行

うにあたって、準備・計画の進め方、対象者の特性を把握する大切さを学ぶことができた。また、クラスでひとつの物を作り上げるために、全員がそれぞれ役割を持って授業時間以外にも休み時間や放課後の時間を利用して準備を行った。本番が無事終了後は達成感とクラスの絆を強く感じ、この調子で国試や就職に向けて多くの課題を皆で乗り越えていきたいと思う。

最後に、3年から福祉の学習や臨床実習が始まり、また進路にも向き合わなければならない焦りや不安等、今の私は様々な思いを抱えている。そのような中でも、大学に行けば信頼できる仲間や先生がいる。そして信念を持って臨床に臨む医療従事者、ソーシャルワーカーの姿をみることで、将来への希望を感じると共に、人を支える責任感で身が引き締まる思いがする。将来いずれの道に進むにせよ、多職種間での連携や対象者の把握・理解は欠かせないだろう。そこで、様々な協力の下で行われている実習の機会を大切にし、その他にも経験を積むことで、他者と関わりながらスキルの向上・多様な視点の構築を図っていきたい。

歯学生の今

口腔生命福祉学科 4年 堀井美希

大学に入学したことをつい最近のように感じていましたが、4月のはじめに3日間、1～5限のガイダンスを受け、そこで私はとうとう最高学年である4年生になったのだと実感がわきました。ガイダンスを受け、不安や緊張を抱えながら幕を開けた4年生の学生生活をご紹介します。

私達は現在、月曜日から木曜日は病院内で各診療科に分かれて1日実習をさせていただいています。金曜日にはPBLや外部講師の先生方からの講義等をうけます。歯科の臨床実習では、主に各診療科で先生方の診療の補助や見学を行っています。治療中のバキューム補助、セメント練和・除去、印象採得の補助、歯面研磨、スケーリング、歯科外科的手術の見学等さまざまです。だいたい1～2週間で実習先の科を交代し全部で17の診療科を約9ヶ月かけてまわります。診療科の先生方や患者様にご迷惑をおかけしないよう予習をし、

頭の中でイメージをしてから実習に臨むのですが、それでも緊張や焦りで戸惑うことも沢山ありました。自分の未熟さ故に大変だと感じることもあり、反省しきりの毎日ですが、そんな不甲斐ない私達に診療科の先生方や歯科衛生士、看護師をはじめとする病院スタッフの皆さんには、ことあるごとに助言をいただきました。医療現場ましてや社会に慣れていない私達に、快く指導をしてくださり、本当に感謝しております。1日の実習を終えると実習日誌の作成をします。ほとんどの診療科はパソコンでポートフォリオを作成し、提出をしています。実習で疲れていても、日誌を作成することを怠らず、その日学んだ知識の整理をします。木曜日の実習が終わると、1週間乗り切った喜びをクラスの友達と分かち合っています。そして、また次の実習が始まります。その中で、大変なことやつらいことがあった日は、昼休みなどに友達と話をしました。時には、症例に対する真



剣な話題も飛び交うようになりました。

この臨床実習は、12月のはじめまで続き、その期間中に1人もしくは2人で、学外のさまざまな福祉施設へ時期をずらして1ヶ月、実習に行きます。福祉現場実習では、特別養護老人ホーム、身体障がい者の方のリハビリセンター、市の児童相談所や障がい者の施設等に実習へ行きます。施設によって実習の内容は異なりますが、事前に実習先の情報収集、実習志望動機、実習計画書の作成、事前訪問を行い実習に臨むこととなります。私は、就労継続支援B型事業所で実習をさせていただきました。そこでは、障害により企業などに就職する事が困難な対象の方に対し、就労に必要な知識及び能力向上のために必要な支援を行います。私は、利用者の方と一緒に作業をさせていただき、実習の後半には、利用者の方の支援計画の立案、支援を行わせていただきました。実習を通して、個別の支援を十分に行っていくためには、支援者が様々な視点を持つことや多職種の連携が必要であり、そのことがソーシャルワークにおい

て重要であると感じました。また、障がい者の方とどのように接すればよいのか不安に感じていましたが、実際に接してみると作業の休憩時や昼休憩時など、利用者の方から話し掛けてくださって楽しく過ごすことができ、知的障害を持つ方々の感じる心は健常者と何ら変わらないのだということを感じ、時にはその方々の個性であると感じました。

さらに4年生は、特論という口腔保健福祉に関する論文形式の報告書の作成、発表、1月と3月にある社会福祉士と歯科衛生士の国家試験の勉強が課せられます。特論は、各自テーマを設定し、文献検索、調査等を行い、論文形式の報告書を作成します。また、勉強だけでなく進路の決定や就職活動等もあり、最後まで忙しくなると思いますが、時には遊んで息抜きもして、これからも周りの人と支えあいながら、お世話になっている方々への感謝の気持ちを忘れずに1日1日を精一杯自己研鑽に励んでいきたいと思えます。

